



令和7年(2025年)12月23日  
葉山中通信 第10号

＜学校教育目標＞  
自ら学び、心豊かで  
たくましく生きる生徒の育成

「生命の尊重」を実践する学校 時を守り、場を清め、礼を正す生徒 主体的に学ぶ力を身につけた生徒

## 冬休みは、自主学習とお手伝いを

### 「一致団結した校風は今も昔も」

これは、「躍進」の8月27日発行の第6号の見出しです。校章に込められた思いから、2学期の頑張りに期待したいと書きました。「葉山フェスタ」や「体育フェスタ」でしっかりと団結できたでしょうか。それぞれがそれぞれの目標に対して「達成感」を感じたものとなっていたように思いました。

同じく、2年学年通信(8/27発行)での見出しは



### 「実らせながら、次の種を育てよう」

でした。2年生は、葉山フェスタでは就職差別に関する学習のことをしっかりと発表しました。また、体育フェスタも綱引き、リレーと大変盛り上がっていました。そして、躍進の第9号では「職場体験」の頑張りの、「新人戦」の頑張りを記事にしました。生徒会を引き継ぎ、慌ただしい中で充実した2学期となったのではないのでしょうか。

3年生の学年通信(8/27発行)では

### 「頑張りの積み重ね」から「頑張りの貯金」へ

という見出しでした。葉山フェスタでは「子どもの権利条約」について発表しました。また、生徒会として全校での合唱なども頑張りました。体育フェスタをしっかりと引っ張ったのも3年生でした。そして、進路決定に向けて10月、12月に三者懇談会がありました。県立高校については今年から入試が変わり、推薦を受ける人も、全員が5教科の学力テストを受けなければならなくなりました。これまで学習したことをしっかりと振り返ることがこの冬休みでは重要になります。「冬来たりなば 春遠からじ」という言葉があります。「今は、つらく苦しいけれども、このあと、きっと幸せがやってくるに違いない」ということです。進路実現に向けて、精一杯の努力を尽くす冬にしてください。そして「これでよかった」といえる春を迎えましょう。

最後に、1年生の学年通信(8/27 発行)は

### 「先輩に学び、仲間とつながり、高め合って」

という見出しでした。部活動、生徒会執行部と3年生が抜けて2年生との活動が始まり、1学期以上に先輩からの学びがあったと思います。また、葉山フェスタ、体育フェスタと代表者、出場者同士で練習して素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。ぜひ、来年は今以上の楽しい行事にしましょう、次の主役はあなたたちです。あれもしたい、これもしたいと夢を持つことが大切です。

各学年、8月の学年通信に込められた思いを形にできた2学期だったと思います。冬休みは「進路実現」につながる自主的な学習、いつも見守っていただいている家族への感謝も含めた大掃除のお手伝いなど、それぞれの年末・年始を過ごしてください。



# ご存じですか。

先日、「第69回滋賀県人権教育研究大会(高島大会)」(11月15, 16日)に本校から複数名の教員が参加し、人権教育に関する学習を深めました。高島で開かれたこともあり、地元の偉人である「中江藤樹」についての紹介やそれにちなんだ学習の取組が紹介されました。「中江藤樹」について、次のような話を思い出しましたので紹介します。

## 『近江聖人の威風』

皆さんは近江聖人と呼ばれる人を知っていますか。その人の名前は、中江藤樹(1608～1648)といいます。中江藤樹は、慶安元年(1648年)40歳の若さでこの世を去りました。

若くして亡くなった藤樹が、どうして近江聖人と呼ばれるほどの人になったのでしょうか。今なお地域の人々や多くの人々に慕われているその生き方とは何だったのでしょうか。彼が人々に教えたものは、『致良知＝「人は本来美しい心をそなえている」』というものでした。そして彼の日常は、言葉一つにしても、行いの一つにしても、いい加減ということがなく、そのすることなすことが自然でありながら、すべて道にかなっていました。そうした高い人格があったからこそ人を感化せずにはおられなかったのだと思われます。



中江藤樹像(藤樹書院所蔵)

高島市 HP より

その藤樹の教えは、生地小川村をはじめ近郷、さらには近江一円(滋賀県一円)に及びました。

藤樹が亡くなってからも、村の若い人たちは、夜になると集まっては、手習いをし、昼は互いに助け合って業に励んでいました。小川村のことをいつしか世間では天下の理想郷と言われるようになっていました。

そうしたある日、一人の武士が小川村の近くを通るついでに、藤樹の墓を訪ねようと思って、畑を耕している農夫に道を尋ねました。すると農夫は、『旅のお方にはわかりにくいと思われるので、私がお案内いたしましょう。』とあって、先に立って道案内をするのでした。その途中で農夫は自分の家に少し立ち寄ると、着物を着替えて、羽織袴姿で出てきました。

その武士はその様子を見て、心の中で、自分を敬って丁寧にも服装を正してきたのだと思いました。

そして、ほどなく藤樹の墓の場所までくると、農夫は垣根の戸を開けると、武士を正面に案内し、自分は戸の外でひざまずき、うやうやしくお墓に向かってお辞儀をするのでした。この様子を見て、武士は驚き、先に農夫が着物を着替えてきたのは、私への礼儀ではなく、藤樹を敬う心からであったことに気がつきました。

『藤樹先生のご家来の方ででもあったのですか?』と尋ねると、農夫は、『いえ、そうでは

ありません。私も含めこの村に住んでいる者は、だれ一人として先生のご恩を受けない者はありません。私の父母も「自分たちの道を知ることができたのは、まったく先生のおかげであるから、決してそのご恩を忘れてはいけない」と常々私に申し聞かせておりました。』と答えるのでした。

その武士は、初めはただ物見遊山の気持ちで藤樹の墓を見ていこう、というくらいにしか考えていなかったのですが、農夫の言葉を聞いて深く心に恥じ、丁寧に墓を拝んで立ち去ったということです。

これは、どれほど中江藤樹が慕われていたかを示すお話の一つです。他にも孝行に関する話など様々なお話がいろんなところで紹介されています。私は高校時代に旧小川村を含む高島市安曇川町にある安曇川高校に通っていました。この高校の校章には藤樹にちなんだ藤があしらわれていました。そんなことから、この高島大会で「中江藤樹の教え」を紹介されていたことは、私にとっては懐かしいと思えることでした。また、改めて、勉強になることも多くありました。



安曇川高校 HP より

## 「中江藤樹の教え」として紹介されていたもの

### ち り ょ う ち 致良知

- ・人は皆、生まれながらにして天から与えられた「良知(りょうち)」、すなわち良心や美しい心を持っています。
- ・しかし、我欲によってその心が曇ってしまうため、絶えず自分自身を磨き続け、鏡のように輝かせておく努力が必要であると説きました。
- ・この良知を明らかにし、実践することが「致良知」です。

### ご し た だ 五事を正す

- ・日常生活の中で良知に至るための具体的な五つの心掛けとして、「五事(ぼう・げん・し・ちょう・し)」を正すことを説きました。
- 貌(ぼう)：和やかな顔つきをする。
- 言(げん)：温かく思いやりのある言葉で話しかける。
- 視(し)：澄んだ優しい眼差しでものを見る。
- 聴(ちょう)：相手の言葉に耳を傾け、ほんとうの気持ちを聴く。
- 思(し)：まごころ(思いやりのある気持ち)をもって相手を思う。

師走に入り、気ぜわしい空気が漂いはじめ、バタバタと日々を過ごすようになってきました。日常の忙しさの中でも、大人も子どもも「五事を正す」行動を心がけたいものです。そんな心がけ一つで人と人との関係はよくなるのではないかと思います。



## 学校の様子 12/4 HAYAMA ダンス3年生



12/9さんぽ DE ルンバ  
(生徒会活動: ボランティアによる通学路ごみ拾い)



12/11税の作文表彰  
草津税務協会会長賞



12/16人権作文コンクール表彰  
大津人権擁護委員協議会長賞



### 1月の予定 ※12/27(土)~1/4(日)学校閉庁日

- 6(火) 3年実力テスト(弁当持参)
- 7(水) 始業式・午前中日課
- 8(木) 午前中日課
- 9(金) 給食開始・2年実力テスト
- 29(木) 一斉委員会
- 1年実力テスト 7(水)~ 8(木)
- 校内書初め展 8(木)~
- 市青少年美術展 23(金)~25(日)※栗東歴史民俗博物館

★栗東市青少年育成大会が1/24(土)にさくらであります。本校吹奏楽部の出演などがあります。  
※冬休みには、アンサンブルコンテスト、1月中旬には、駅伝や空手などの近畿、全国レベルの大会に参加する予定の人もいます。寒さに負けず、精一杯、力を発揮できるよう期待しています。

**1月 部活動完全下校 16:45**  
※冬休み中は16:30

**部活動停止日**  
1/6(火)、7(水)、14(水)  
21(水)、28(水)  
※1/4までの学校閉庁中も部停

電子版「教育しが」はこちらからご覧になれます。

教育や子育てに関わるタイムリーなお知らせやご案内を掲載しています。  
印刷物版「教育しが」にはない情報やより詳しい情報をご覧いただけます。

